

科目名	基礎医学講座							
科目名(英)								
単位数	1	時間数	30時間	担当者	灘吉享子・三田智巳			
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	施設にて言語聴覚士として勤務			
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼間部 3年							
授業概要	言語聴覚障害および言語聴覚臨床について学修する上で基礎となる人体のしくみ・疾病と治療に関する知識・技能・態度を修得する							
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○					医学の基本概念について説明できる		
	○					病院と病態の基本概念について説明できる		
	○					人体の構造と機能に関する基本的概念について説明できる		
	○					老化の理論と加齢に伴う変化と身体機能、生活機能、心理的機能の変化を説明できる		
テキスト・教材 参考図書								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	医学総論に関する国家試験問題の演習				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	2	アクティブラーニング: 医学総論				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	3	解剖学に関する国家試験問題の演習				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	4	アクティブラーニング: 解剖学				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	5	解剖学演習に関する国家試験問題の演習				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	6	アクティブラーニング: 解剖学演習				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	7	生理学に関する国家試験問題の演習				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	8	アクティブラーニング: 生理学				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	9	生理学演習に関する国家試験問題の演習				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	10	アクティブラーニング: 生理学演習				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	11	病理学に関する国家試験問題の演習				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	12	アクティブラーニング: 病理学				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	13	基礎医学国家試験演習①				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	14	基礎医学国家試験演習②				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	15	基礎医学国家試験演習解説				講座全体を振り返る。		
評価方法	成績処理方法: 1.基礎医学国家試験演習にて評価 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他		
	基礎医学国家試験演習	○				100%		
	小テスト							
	宿題・レポート							
	発表・作品							
履修上の注意								

科目名	臨床医学講座							
科目名(英)								
単位数	1	時間数	30時間	担当者	灘吉享子・三田智巳			
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	施設にて言語聴覚士として勤務			
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼間部 3年							
授業概要	言語聴覚障害および言語聴覚臨床について学修する上で基礎となる人体のしくみ・疾病と治療に関する知識・技能・態度を修得する							
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○					言語聴覚臨床に関する内科学的診断と治療の基本概念について説明できる		
	○					言語聴覚臨床に関する呼吸器疾患について基本的な説明ができる		
	○					言語聴覚臨床に関するリハビリテーション医学について基本的な説明ができる		
	○					言語聴覚臨床に関する耳鼻咽喉科疾患について基本的な説明ができる		
	○					言語聴覚臨床に関する臨床神経科学について基本的な説明ができる		
テキスト・教材 参考図書								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	内科学(老年医学含む)に関する国家試験問題演習				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	2	アクティブラーニング: 内科学				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	3	小児科学に関する国家試験問題演習				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	4	アクティブラーニング: 小児科学				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	5	精神医学に関する国家試験問題演習				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	6	アクティブラーニング: 精神医学				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	7	リハビリテーション医学に関する国家試験問題演習				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	8	アクティブラーニング: リハビリテーション医学				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	9	耳鼻咽喉科学に関する国家試験問題演習				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	10	アクティブラーニング耳鼻咽喉科学				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	11	臨床神経科学に関する国家試験問題演習				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	12	アクティブラーニング: 臨床神経科学				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	13	臨床医学国家試験演習①				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	14	臨床医学国家試験演習②				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	15	臨床医学国家試験演習解説				講座全体を振り返る。		
評価方法	成績処理方法: 1.臨床医学国家試験演習にて評価 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他		
	臨床医学国家試験演習	○				100%		
	小テスト							
	宿題・レポート							
	発表・作品							
履修上の注意								

科目名	専門基礎講座							
科目名(英)								
単位数	1	時間数	30時間	担当者	灘吉享子・三田智巳			
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	施設にて言語聴覚士として勤務			
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼間部 3年							
授業概要	言語聴覚障害および言語聴覚臨床について学修する上で基礎となる人体のしくみ・疾病と治療に関する知識・技能・態度を修得する							
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○					神経系の構造と機能、病態、診断と治療について説明できる		
	○					聴覚系の構造と機能、病態、診断と治療について説明できる		
	○					呼吸発声発語系の構造と機能、病態、診断と治療について説明できる		
	○					言語発達の基本的概念が説明できる		
テキスト・教材 参考図書								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	呼吸系の国家試験問題演習				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	2	アクティブラーニング:呼吸系				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	3	発声系の国家試験問題演習				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	4	アクティブラーニング:発声系				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	5	発語系の国家試験問題演習				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	6	アクティブラーニング:発語系				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	7	聴覚系医学に関する国家試験問題演習				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	8	アクティブラーニング:聴覚系医学				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	9	神経系医学に関する国家試験問題演習				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	10	アクティブラーニング:神経系医学				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	11	言語発達学に関する国家試験問題演習				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	12	アクティブラーニング:言語発達学				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	13	専門基礎国家試験演習①				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	14	専門基礎国家試験演習②				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	15	専門基礎国家試験演習解説				講座全体を振り返る。		
評価方法	成績処理方法: 1専門基礎国家試験演習にて評価 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他		
	専門基礎国家試験演習	○				100%		
	小テスト							
	宿題・レポート							
	発表・作品							
履修上の注意								

科目名	応用言語学							
科目名(英)								
単位数	1	時間数	30時間	担当者	高井 岩生			
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	大学にて言語学の研究に従事			
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼間部 3年							
授業概要	言語聴覚障害および言語聴覚臨床について学修する上で基礎となる言語とコミュニケーションに関する知識・技能・態度を修得する。							
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○					人間言語の特性について説明できる		
	○					言語の要素とその機能について説明できる		
	○					意味論・形態論・統語論・語用論などの構造と基本概念を説明できる		
	○					国文法の基本が説明できる		
テキスト・教材 参考図書								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	言語学系の国家試験過去問題の特徴				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	2	音素・ミニマムペア系の問題				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	3	恣意性・分節性の問題				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	4	意味論に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	5	形態論に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	6	統語論に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	7	語用論に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	8	国文法に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	9	修飾に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	10	n項動詞に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	11	国家試験対策言語学アクティブラーニング				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	12	言語学ミニ模擬試験				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	13	言語学ミニ国家試験模擬試験の解説				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	14	言語学模擬試験				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	15	言語学国家試験模擬試験の解説				講座全体を振り返る。		
評価方法	成績処理方法: 1.ミニ模擬試験と模擬試験にて評価 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
	定期試験	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	小テスト		○				100%	
	宿題・レポート							
	発表・作品							
履修上の注意								

科目名	言語聴覚マネジメントと研究法							
科目名(英)								
単位数	1	時間数	15時間	担当者	八木 智大 ほか			
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	言語聴覚士として病院に勤務			
対象学科・学年	言語聴覚学科3年							
授業概要	組織における役割と求められる行動を修得する。生涯学習する行動を修得する。							
授業形態	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○					病院施設の組織の全体像を学び、組織マネジメント、連携について説明することができる。		
	○					医療従事における質的補償及びリスクマネジメントについて説明することができる。		
	○					研究法の基礎を理解し、他者の研究を読み取ることができる。		
	○					論文レビューを積み重ねることができる。		
	○	○				経験を基にした自身の学びを発表することができる。		
テキスト・教材 参考図書	参考図書:リハビリテーション管理学 医学書院							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	インシデントアクシデント				受講内容をA4一枚にまとめ、ファイリングする(50分)		
	2	論文の検索とレビュー				受講内容をA4一枚にまとめ、ファイリングする(50分)		
	3	組織マネジメント				受講内容をA4一枚にまとめ、ファイリングする(50分)		
	4	業務マネジメント				受講内容をA4一枚にまとめ、ファイリングする(50分)		
	5	研究法基礎				受講内容をA4一枚にまとめ、ファイリングする(50分)		
	6	論文検索とレビュー				受講内容をA4一枚にまとめ、ファイリングする(50分)		
	7	実習報告会				受講内容をA4一枚にまとめ、ファイリングする(50分)		
	8	実習後OSCE				実技試験に向けて練習をしておく		
	9							
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
	15							
評価方法	1) 成果物評価:受講ごとのまとめを成果物として別途基準に合わせて評価する。							
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲		
	実技試験			○		50%		
	小テスト							
	宿題・レポート							
	発表・作品		○			50%		
履修上の注意								

科目名	国家試験対策セミナー					
科目名(英)						
単位数	1		時間数	45時間	担当者	専任教員ほか
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験	施設にて言語聴覚士として勤務
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼間部 3年					
授業概要	国家試験と臨床現場で用いる分野において、演習及びグループワークを通して学び合いながら理解を深める。専門用語を理解しイメージすることで応用的な問題にも対応できる思考力を養う。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○					高次脳機能系臨床の基本原理が説明できる
	○					音声言語臨床の基本原理が説明できる
	○					発達系臨床の基本原理が説明できる
	○					聴覚系臨床の基本原理が説明できる
テキスト・教材 参考図書						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	臨床神経科学に関する問題演習				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。
	2	アクティブラーニング: 臨床神経科学				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。
	3	失語症に関する問題演習				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。
	4	アクティブラーニング: 失語症				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。
	5	基礎言語学に関する問題演習				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。
	6	アクティブラーニング: 基礎言語学				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。
	7	音声学に関する問題演習				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。
	8	アクティブラーニング: 音声学				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。
	9	音響学に関する問題演習				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。
	10	アクティブラーニング: 音響学				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。
	11	心理測定法に関する問題演習				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。
	12	アクティブラーニング: 心理測定法				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。
	13	言語学演習に関する問題演習				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。
	14	アクティブラーニング: 言語学演習				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。
	15	補聴器基礎に関する問題演習				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。
	16	アクティブラーニング: 補聴器基礎				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。
	17	補聴器臨床に関する問題演習				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。
	18	アクティブラーニング: 補聴器臨床				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。
	19	人工内耳に関する問題演習				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。
	20	人工中耳に関する問題演習				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。
	21	アクティブラーニング: 人工聴覚器				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。
	22	学習認知、口腔外科に関する問題演習				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。
	23	模擬試験				講座全体を振り返る。

科目名	臨床技術学IV					
科目名(英)						
単位数	1		時間数	30時間	担当者	八木智大
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験	言語聴覚士として病院に勤務
対象学科・学年	言語聴覚学科3年					
授業概要	1. 言語聴覚療法の目的における検査・評価・診断の流れを説明できる。 2. あらゆる要因を加味した、言語病理学的診断における根拠を統合して説明できる。 3. それぞれの病態や背景にあわせた、治療目標および計画を立案しその根拠について説明できる。 4. OSCEの実施により、具体的な臨床像を念頭において取り組みの必要性を理解し説明することができる					
授業形態	講義:	演習:	○	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○ ○					検査・評価・診断の内容を根拠をもって選択し説明することができる。
	○ ○					言語聴覚障害に関わる疾患の病態について説明することができる。
	○ ○					治療目標や計画立案の内容を根拠をもって計画し説明することができる。
	○ ○ ○ ○					臨床実習後OSCEを通して自分の課題を知り説明することができる。
テキスト・教材 参考図書	資料を配布する					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	言語聴覚療法の実際にについて振り返り/臨床実習後OSCEについて説明				配布資料の内容について30分程度復習しておくこと
	2	臨床実習報告会実施				本日の発表内容について2時間以上調べ学習
	3	臨床実習報告会実施				本日の発表内容について2時間以上調べ学習
	4	臨床実習報告会実施				本日の発表内容について2時間以上調べ学習
	5	検査・訓練演習(実際に実習で経験した内容をもとにして)				検査・訓練の内容について理解を深めることを目的に1時間程度参考文献を検索し読む
	6	検査・訓練演習(実際に実習で経験した内容をもとにして)				検査・訓練の内容について理解を深めることを目的に1時間程度参考文献を検索し読む
	7	臨床実習後OSCEの実施				自主練習を2時間以上行う
	8	臨床実習後OSCEの実施				自主練習を2時間以上行う
	9	臨床実習後OSCEの実施				自主練習を2時間以上行う
	10	臨床実習事後セミナー(検査について)				自主練習を2時間以上行う
	11	臨床実習事後セミナー(評価について)				自主練習を2時間以上行う
	12	臨床実習事後セミナー(診断について)				自主練習を2時間以上行う
	13	臨床実習事後セミナー(訓練内容について)				自主練習を2時間以上行う
	14	臨床実習事後セミナー(リハビリテーションにおける言語聴覚療法について /ICFの考え方を土台にして)				配布資料の内容について1時間程度復習しておくこと
	15	まとめ				
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲
	定期試験(実技テスト)		○	○	○	○
	発表		○	○	○	○
	宿題・レポート		○	○		
履修上の注意						